

第1回 HIS (Human-oriented Information System) 研究会 開催報告

研究会主査 川野喜一

- 開催日時 2016年4月26日(火) 18:30~20:30
- 開催場所 青山学院大学 青山キャンパス 総研ビル 19 会議室
- 出席者 28名

■開催概要

「ソーシャルな資本主義 つながりの経営戦略(日本経済新聞社 2013)」をご執筆された慶應義塾大学の國領二郎先生をお迎えして、すべてのモノとヒトがつながる時代に求められる創発的な価値創造、ビジネスの姿や社会の姿についてご講演いただき、これからの情報システム社会(人と情報)について考えた。

■講演題目及び講演者

「ソーシャルな資本主義(すべてのモノとヒトがつながる時代のビジネスと社会の姿)」
國領二郎先生 慶應義塾常任理事、慶應義塾大学総合政策学部教授

■講演概要

- 情報の覇者が産業を制する時代
 - ・情報によってすべてのヒトとモノがつながる時代
 - ・20世紀大量生産大量販売モデル(匿名経済)の終焉と「見える」21世紀モデルへの大転換
- ビジネスモデルの変化
 - ・つながりの技術とつながる情報(全てのヒト、モノの属性と時系列的な位置情報)
 - ・ビッグデータ、POSからPOU
 - ・相手が見えるモデル(所有権から利用権のライセンスモデルへ)
- 変化の時代の研究の必要性
 - ・設計可能な人工物(技術・制度・ビジネスモデル)と設計不可能な社会(個の自由意思の存在)
 - ・帰結を設計することはできない:創発と予測不可能性
 - ・プラットフォーム設計:プラットフォーム(協働の基盤)設計を通じた創発的社会進化
 - ・技術のボトルネックに着目した共進化のモデル化:ボトルネックを最大限に解放するような社会システムの構成とボトルネック解消に向けた技術探索
 - ・学際的研究の必要性:生産の果実?(経済学、経営学)、幸せで不幸な世界?生きる意味?(哲学、心理学)、AIによるシンギュラリティ(社会学、倫理学)、自由と責任(法学)
- 人と情報のエコシステム
 - ・JST 社会技術開発研究センター
 - ・情報技術と人間のなじみのとれた社会

■質疑(ディスカッション)

- ・メゾ経済検討の必要性和プラットフォーム
- ・最終的に皆が幸せな状態(人間は常に不満な動物)をいかに想定し示せるか、動的にどう対応できるか
- ・昔から外商のモデルもあるが、見えない同士の“人と社会の信頼”が次のモデル
- ・“人”の定義:どのように想定するか、アーキファクトに対する“人”の営みをいかに理解するか(社会的文脈? 人間系?)
- ・社会は設計できない:地域性や文化で差があるかグローバルか
- ・プラットフォーム設計:十分に柔軟なアーキテクチャやアダプタブルな設計、ヘテロなインオペなど

以上